

# 金沢大学入試問題2008

## 1 [2008 金沢大]

$xy$  平面において、原点  $O$  を中心とする半径  $1$  の円を  $C$  とする。 $a$  を正の実数とし、点  $A(0, 1)$  を通り、傾き  $a$  の直線を  $\ell$  とする。 $C$  と  $\ell$  の交点で、 $A$  と異なるものを  $P$  とし、 $\ell$  と直線  $y = -2$  の交点を  $Q$  とする。また、 $P$  における  $C$  の接線を  $m$  とし、 $m$  と直線  $y = -2$  の交点を  $R$  とする。

- 直線  $m$  の方程式を  $a$  を用いて表せ。
- $a$  が正の値をとって動くとき、線分  $QR$  の長さの最小値と、そのときの  $a$  の値を求めよ。
- (2) で求めた  $a$  の値に対して、点  $A$  を通り、 $\angle QAR$  を  $2$  等分する直線の方程式を求めよ。

(1)  $\ell : y = ax + 1 \dots\dots ①$ ,  $C : x^2 + y^2 = 1 \dots\dots ②$

①, ② から  $y$  を消去すると  $x^2 + (ax + 1)^2 = 1$

整理すると  $x\{(a^2 + 1)x + 2a\} = 0$  よって  $x = 0, -\frac{2a}{a^2 + 1}$

$x = -\frac{2a}{a^2 + 1}$  を ① に代入すると  $y = \frac{1 - a^2}{a^2 + 1}$

したがって、点  $P$  の座標は  $\left(-\frac{2a}{a^2 + 1}, \frac{1 - a^2}{a^2 + 1}\right)$

よって、接線  $m$  の方程式は  $-\frac{2a}{a^2 + 1}x + \frac{1 - a^2}{a^2 + 1}y = 1$

すなわち  $-2ax + (1 - a^2)y = a^2 + 1 \dots\dots ③$

(2) ① に  $y = -2$  を代入して整理すると  $x = -\frac{3}{a}$  よって  $Q\left(-\frac{3}{a}, -2\right)$

③ に  $y = -2$  を代入して整理すると  $x = \frac{a^2 - 3}{2a}$  よって  $R\left(\frac{a^2 - 3}{2a}, -2\right)$

$a > 0$  であるから  $QR = \left|\frac{a^2 - 3}{2a} - \left(-\frac{3}{a}\right)\right| = \frac{1}{2}\left(a + \frac{3}{a}\right) \geq \frac{1}{2} \cdot 2\sqrt{a \cdot \frac{3}{a}} = \sqrt{3}$

等号は  $a = \frac{3}{a}$  すなわち  $a = \sqrt{3}$  のとき成り立つ。

したがって、 $a = \sqrt{3}$  のとき最小値  $\sqrt{3}$  をとる。

(3)  $a = \sqrt{3}$  のとき  $Q(-\sqrt{3}, -2), R(0, -2)$

よって  $AQ = \sqrt{(-\sqrt{3} - 0)^2 + (-2 - 1)^2} = 2\sqrt{3}$

$AR = 1 - (-2) = 3$

$\angle QAR$  の二等分線と線分  $QR$  の交点を  $S$  とすると

$QS : SR = AQ : AR = 2\sqrt{3} : 3 = 2 : \sqrt{3}$

$\frac{\sqrt{3} \cdot (-\sqrt{3}) + 2 \cdot 0}{2 + \sqrt{3}} = \frac{-3}{2 + \sqrt{3}}$  であるから  $S\left(\frac{-3}{2 + \sqrt{3}}, -2\right)$

求める直線  $AS$  の方程式は

$y - 1 = \frac{1 - (-2)}{0 - \frac{-3}{2 + \sqrt{3}}}x$  すなわち  $y = (2 + \sqrt{3})x + 1$

## 2 [2008 金沢大]

$c$  を正の定数とし、 $O$  を原点とする座標平面上の放物線  $y = cx^2$  を  $C$  とする。 $C$  上に  $2$  点  $A(a, ca^2)$  と  $B(b, cb^2)$  がある。ただし  $a > 0, b < 0$  とする。

- $\angle AOB = \frac{\pi}{2}$  であるための条件は  $b = -\frac{1}{c^2a}$  であることを示せ。
- $\angle AOB = \frac{\pi}{2}$  のとき、 $AB \geq \frac{2}{c}$  であることを示せ。
- $A$  と  $B$  が  $\angle AOB = \frac{\pi}{2}$  を満たしながら動くとき、 $\triangle AOB$  の重心  $G$  の軌跡を求めよ。

(1)  $2$  直線  $OA, OB$  の傾きはそれぞれ  $ca, cb$  である。

$\angle AOB = \frac{\pi}{2}$  であるから  $ca \cdot cb = -1$

よって  $b = -\frac{1}{c^2a} \dots\dots ①$

(2)  $\angle AOB = \frac{\pi}{2}$  であるから、三平方の定理により

$$AB = \sqrt{OA^2 + OB^2} = \sqrt{a^2 + (ca^2)^2 + \{b^2 + (cb^2)^2\}}$$

$$= \sqrt{a^2 + c^2a^4 + \frac{1}{c^4a^2} + \frac{1}{c^6a^4}}$$

相加平均・相乗平均の大小関係により  $a^2 + \frac{1}{c^4a^2} \geq 2\sqrt{a^2 \cdot \frac{1}{c^4a^2}} = \frac{2}{c^2}$

等号は  $a^2 = \frac{1}{c^4a^2}$  すなわち  $a = \frac{1}{c}$  のとき成り立つ。

同様に  $c^2a^4 + \frac{1}{c^6a^4} \geq 2\sqrt{c^2a^4 \cdot \frac{1}{c^6a^4}} = \frac{2}{c^2}$

等号は  $c^2a^4 = \frac{1}{c^6a^4}$  すなわち  $a = \frac{1}{c}$  のとき成り立つ。

したがって、 $AB$  は  $a = \frac{1}{c}$  で最小値  $\sqrt{\frac{2}{c^2} + \frac{2}{c^2}} = \frac{2}{c}$  をとる。

すなわち  $AB \geq \frac{2}{c}$

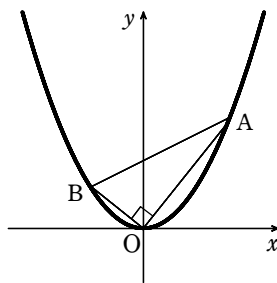
(3)  $G(x, y)$  とおくと  $x = \frac{a+b}{3}, y = \frac{ca^2 + cb^2}{3}$

ここで  $y = \frac{ca^2 + cb^2}{3} = \frac{c\{(a+b)^2 - 2ab\}}{3}$

$x = \frac{a+b}{3}$  から  $a+b = 3x$  ① から  $ab = -\frac{1}{c^2}$

これらを  $y = \frac{c\{(a+b)^2 - 2ab\}}{3}$  に代入すると  $y = \frac{c\left\{(3x)^2 + \frac{2}{c^2}\right\}}{3} = 3cx^2 + \frac{2}{3c}$

よって、 $G$  の軌跡は 放物線  $y = 3cx^2 + \frac{2}{3c}$



## 3 [2008 金沢大]

$0 \leq \theta \leq \pi$  の範囲で定義された関数

$$f(\theta) = a \sin \theta \cos \theta + b(\sin \theta - \cos \theta) - 1$$

を考える。ただし、 $a, b$  は正の実数とする。

- $t = \sin \theta - \cos \theta$  として、 $f(\theta)$  を  $a, b, t$  を用いて表せ。また、 $t$  のとりうる値の範囲を求めよ。
- 等式  $f(\theta) = 0$  を満たす  $\theta$  が存在するような点  $(a, b)$  全体からなる領域を座標平面上に図示せよ。

(1)  $t = \sin \theta - \cos \theta$  から  $t^2 = 1 - 2\sin \theta \cos \theta$

よって  $\sin \theta \cos \theta = \frac{1 - t^2}{2}$

ゆえに  $f(\theta) = a \cdot \frac{1 - t^2}{2} + bt - 1 = -\frac{1}{2}at^2 + bt + \frac{a}{2} - 1$

また  $t = \sqrt{2} \sin\left(\theta - \frac{\pi}{4}\right)$

$0 \leq \theta \leq \pi$  より  $-\frac{\pi}{4} \leq \theta - \frac{\pi}{4} \leq \frac{3}{4}\pi$  であるから  $-\frac{1}{\sqrt{2}} \leq \sin\left(\theta - \frac{\pi}{4}\right) \leq 1$

したがって、 $t$  のとりうる値の範囲は  $-1 \leq t \leq \sqrt{2}$

(2)  $g(t) = -\frac{1}{2}at^2 + bt + \frac{a}{2} - 1$  とすると

$$g(t) = -\frac{1}{2}a\left(t - \frac{b}{a}\right)^2 + \frac{b^2}{2a} + \frac{a}{2} - 1$$

等式  $f(\theta) = 0$  を満たす  $\theta$  が  $0 \leq \theta \leq \pi$  の範囲に存在するための条件は、 $g(t) = 0$  を満たす  $t$  が  $-1 \leq t \leq \sqrt{2}$  の範囲に存在すること  $\dots\dots (*)$  である。

$a > 0, b > 0$  から  $\frac{b}{a} > 0, g(-1) = -b - 1 < 0$

[1]  $0 < \frac{b}{a} \leq \sqrt{2}$  すなわち  $0 < b \leq \sqrt{2}a$  のとき

$(*) \iff g\left(\frac{b}{a}\right) \geq 0$  であるから  $\frac{b^2}{2a} + \frac{a}{2} - 1 \geq 0$

分母を払って  $b^2 + a^2 - 2a \geq 0$

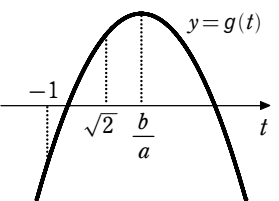
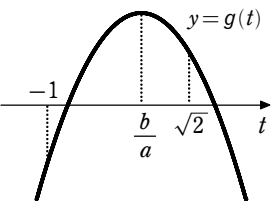
よって  $(a - 1)^2 + b^2 \geq 1$

[2]  $\sqrt{2} < \frac{b}{a}$  すなわち  $b > \sqrt{2}a$  のとき

$(*) \iff g(\sqrt{2}) \geq 0$  であるから

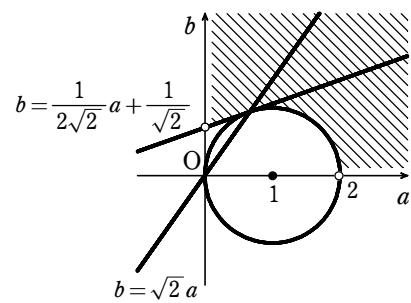
$$-\frac{1}{2}a + \sqrt{2}b - 1 \geq 0$$

よって  $b \geq \frac{1}{2\sqrt{2}}a + \frac{1}{\sqrt{2}}$



# 金沢大学入試問題2008

[1], [2] から, 求める領域は右の図の斜線部分である。ただし, 境界線は座標軸上を含まず, 他は含む。



【参考】 2直線  $b = \sqrt{2}a$ ,  $b = \frac{1}{2\sqrt{2}}a + \frac{1}{\sqrt{2}}$

の交点の座標を求めると

$$\left(\frac{2}{3}, \frac{2\sqrt{2}}{3}\right)$$

この点において, 直線  $b = \frac{1}{2\sqrt{2}}a + \frac{1}{\sqrt{2}}$

は円  $(a-1)^2 + b^2 = 1$  に接している。

## 4 [2008 金沢大]

実数  $a$  に対して, 関数  $f(x)$ ,  $g(x)$  を  $f(x) = -(a+1)x - 1$ ,  $g(x) = 2x + \frac{a}{3}$  とし,

$m(a) = \int_0^1 f(x)g(x)dx$  とする。

- (1)  $m(a) > 0$  を満たす  $a$  の値の範囲を求めよ。  
 (2) (1) で求めた  $a$  の値の範囲において, 関数  $h(x) = g(x) - m(a)f(x)$  を考える。このとき,  $\int_0^1 f(x)h(x)dx = 0$  となる  $a$  の値を求めよ。

$$\begin{aligned} (1) \quad m(a) &= -\int_0^1 \{(a+1)x + 1\} \left(2x + \frac{a}{3}\right) dx \\ &= -\int_0^1 \left\{ 2(a+1)x^2 + \left(\frac{a^2}{3} + \frac{a}{3} + 2\right)x + \frac{a}{3} \right\} dx \\ &= -\left[ \frac{2(a+1)}{3}x^3 + \frac{1}{2} \left(\frac{a^2}{3} + \frac{a}{3} + 2\right)x^2 + \frac{a}{3}x \right]_0^1 \\ &= -\frac{1}{6}(a^2 + 7a + 10) = -\frac{1}{6}(a+2)(a+5) \end{aligned}$$

よって,  $m(a) > 0$  から  $(a+2)(a+5) < 0$

したがって  $-5 < a < -2$

$$\begin{aligned} (2) \quad \int_0^1 f(x)h(x)dx &= \int_0^1 f(x)\{g(x) - m(a)f(x)\}dx \\ &= \int_0^1 f(x)g(x)dx - m(a)\int_0^1 \{f(x)\}^2 dx \\ &= m(a) - m(a)\int_0^1 \{f(x)\}^2 dx = m(a) \left[ 1 - \int_0^1 \{f(x)\}^2 dx \right] \end{aligned}$$

$m(a) > 0$  であるから,  $\int_0^1 f(x)h(x)dx = 0$  のとき  $\int_0^1 \{f(x)\}^2 dx = 1$  …… ①

$$\begin{aligned} \text{ここで} \quad \int_0^1 \{f(x)\}^2 dx &= \int_0^1 \{(a+1)x + 1\}^2 dx = \int_0^1 \{(a+1)^2 x^2 + 2(a+1)x + 1\} dx \\ &= \left[ \frac{(a+1)^2}{3}x^3 + (a+1)x^2 + x \right]_0^1 = \frac{(a+1)^2}{3} + (a+1) + 1 \end{aligned}$$

よって, ① から  $\frac{(a+1)^2}{3} + (a+1) + 1 = 1$

ゆえに  $(a+1)^2 + 3(a+1) = 0$

$$(a+1)\{(a+1) + 3\} = 0$$

したがって  $(a+1)(a+4) = 0$

$-5 < a < -2$  であるから  $a = -4$

## 5 [2008 金沢大]

$a$  を実数とする。

- (1)  $a \geq 0$  のとき,  $S(a) = \int_0^1 |x^3 - 3ax^2 + 2a^2x| dx$  を求めよ。  
 (2)  $a$  が  $0 \leq a \leq \frac{1}{2}$  の範囲を動くとき,  $S(a)$  の最大値を求めよ。

(1)  $f(x) = x^3 - 3ax^2 + 2a^2x$  とすると  $f(x) = x(x-a)(x-2a)$   
 $F(x) = \frac{x^4}{4} - ax^3 + a^2x^2$  とすると

$$F(0) = 0, \quad F(1) = a^2 - a + \frac{1}{4}, \quad F(a) = \frac{a^4}{4}, \quad F(2a) = 0$$

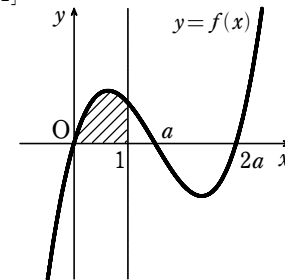
[1]  $1 \leq a$  のとき

$$S(a) = \int_0^1 f(x)dx = [F(x)]_0^1 = F(1) - F(0) = a^2 - a + \frac{1}{4}$$

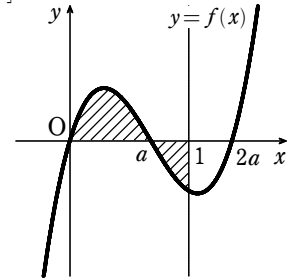
[2]  $a < 1 < 2a$  すなわち  $\frac{1}{2} < a < 1$  のとき

$$\begin{aligned} S(a) &= \int_0^a f(x)dx + \int_a^1 \{-f(x)\}dx = [F(x)]_0^a - [F(x)]_a^1 \\ &= 2F(a) - F(0) - F(1) = 2 \cdot \frac{a^4}{4} - 0 - \left(a^2 - a + \frac{1}{4}\right) \\ &= \frac{a^4}{2} - a^2 + a - \frac{1}{4} \end{aligned}$$

[1]



[2]



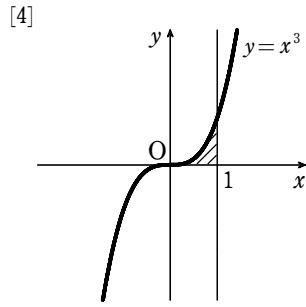
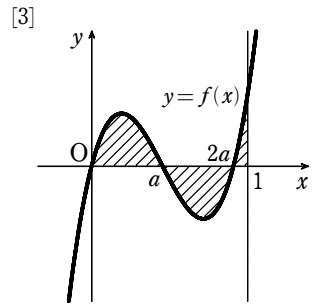
[3]  $0 < 2a \leq 1$  すなわち  $0 < a \leq \frac{1}{2}$  のとき

$$\begin{aligned} S(a) &= \int_0^a f(x)dx + \int_a^{2a} \{-f(x)\}dx + \int_{2a}^1 f(x)dx = [F(x)]_0^a - [F(x)]_a^{2a} + [F(x)]_{2a}^1 \\ &= 2F(a) - 2F(2a) - F(0) + F(1) = 2 \cdot \frac{a^4}{4} - 2 \cdot 0 - 0 + \left(a^2 - a + \frac{1}{4}\right) \\ &= \frac{a^4}{2} + a^2 - a + \frac{1}{4} \quad \dots\dots ① \end{aligned}$$

[4]  $a = 0$  のとき  $S(0) = \int_0^1 x^3 dx = \left[ \frac{x^4}{4} \right]_0^1 = \frac{1}{4}$

金沢大学入試問題2008

①に  $a=0$  を代入すると  $\frac{1}{4}$  となるから、①は  $a=0$  のときにも成り立つ。



以上をまとめて  $0 \leq a \leq \frac{1}{2}$  のとき  $S(a) = \frac{a^4}{2} + a^2 - a + \frac{1}{4}$   
 $\frac{1}{2} < a < 1$  のとき  $S(a) = \frac{a^4}{2} - a^2 + a - \frac{1}{4}$   
 $1 \leq a$  のとき  $S(a) = a^2 - a + \frac{1}{4}$

(2) (1) から、 $0 \leq a \leq \frac{1}{2}$  のとき  $S(a) = \frac{a^4}{2} + a^2 - a + \frac{1}{4}$ ,  $S'(a) = 2a^3 + 2a - 1$

$S'(a)$  を  $a$  で微分すると  $S''(a) = 6a^2 + 2 > 0$

よって、 $S'(a)$  は単調に増加して、更に  $S'(0) = -1 < 0$ ,  $S'(\frac{1}{2}) = \frac{1}{4} > 0$

であるから、 $S'(a) = 0$  を満たす  $a$  が  $0 < a < \frac{1}{2}$

の範囲にただ1つ存在する。

それを  $\alpha$  とすると、 $0 \leq a \leq \frac{1}{2}$  における  $S(a)$

の増減表は右のようになる。

よって、 $S(a)$  は  $a=0$  のとき最大値  $\frac{1}{4}$  をとる。

$a$	0	...	$\alpha$	...	$\frac{1}{2}$
$S'(a)$		-	0	+	
$S(a)$	$\frac{1}{4}$	$\searrow$	極小	$\nearrow$	$\frac{1}{32}$

[6] [2008 金沢大]

$xyz$  空間において、原点  $O$  を中心とする半径1の球面  $S: x^2 + y^2 + z^2 = 1$ , および  $S$  上の点  $A(0, 0, 1)$  を考える。 $S$  上の  $A$  と異なる点  $P(x_0, y_0, z_0)$  に対して、2点  $A, P$  を通る直線と  $xy$  平面の交点を  $Q$  とする。

(1)  $\vec{AQ} = t\vec{AP}$  ( $t$  は実数) とおくと、 $\vec{OQ}$  を  $t, \vec{OP}, \vec{OA}$  を用いて表せ。

(2)  $\vec{OQ}$  の成分表示を  $x_0, y_0, z_0$  を用いて表せ。

(3) 球面  $S$  と平面  $y = \frac{1}{2}$  の共通部分が表す図形を  $C$  とする。点  $P$  が  $C$  上を動くとき、 $xy$  平面上における点  $Q$  の軌跡を求めよ。

(1)  $\vec{AQ} = t\vec{AP}$  から  $\vec{OQ} - \vec{OA} = t(\vec{OP} - \vec{OA})$

よって  $\vec{OQ} = (1-t)\vec{OA} + t\vec{OP}$  ..... ①

(2) ① から  $\vec{OQ} = (1-t)(0, 0, 1) + t(x_0, y_0, z_0) = (tx_0, ty_0, 1-t+tz_0)$

$Q$  は  $xy$  平面上の点であるから  $1-t+tz_0 = 0$

$P$  は  $A$  と異なるから  $z_0 \neq 1$  よって  $t = \frac{1}{1-z_0}$

ゆえに  $\vec{OQ} = \left( \frac{x_0}{1-z_0}, \frac{y_0}{1-z_0}, 0 \right)$

(3) 点  $P$  が  $C$  上を動くから  $x_0^2 + y_0^2 + z_0^2 = 1, y_0 = \frac{1}{2}$

よって  $x_0^2 + z_0^2 = \frac{3}{4}$  ..... ②

$\vec{OQ} = \left( \frac{x_0}{1-z_0}, \frac{1}{2(1-z_0)}, 0 \right)$

$\vec{OQ} = (X, Y, 0)$  とすると

$X = \frac{x_0}{1-z_0}, Y = \frac{1}{2(1-z_0)}$  ( $\neq 0$ )

よって  $x_0 = \frac{X}{2Y}, z_0 = 1 - \frac{1}{2Y}$

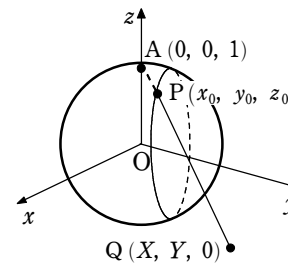
これを②に代入して  $\left(\frac{X}{2Y}\right)^2 + \left(1 - \frac{1}{2Y}\right)^2 = \frac{3}{4}$

$X^2 + (2Y-1)^2 = 3Y^2$

$X^2 + Y^2 - 4Y + 1 = 0$

$X^2 + (Y-2)^2 = 3$

したがって、点  $Q$  の軌跡は点  $(0, 2, 0)$  を中心とする半径  $\sqrt{3}$  の円である。



[7] [2008 金沢大]

(1)  $a$  を定数とし、正の数からなる数列  $\{x_n\}$  は  $\lim_{n \rightarrow \infty} (\sqrt{x_n + n} - \sqrt{n}) = a$  を満たすとする。

このとき、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{x_n}{\sqrt{n}} = 2a$  が成り立つことを示せ。

(2) 自然数  $L, n$  に対して

$$\sqrt{L+n+1} - \sqrt{n+1} < \frac{1}{2} \sum_{k=1}^L \frac{1}{\sqrt{k+n}} < \sqrt{L+n} - \sqrt{n}$$

が成り立つことを示せ。

(3)  $b$  は定数で、 $b > 1$  とする。自然数  $n$  に対して、集合

$$\left\{ L \mid L \text{ は } \sum_{k=1}^L \frac{1}{\sqrt{k+n}} < b \text{ を満たす自然数} \right\}$$

の要素の個数を  $L_n$  とする。このとき、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{L_n}{\sqrt{n}} = b$  が成り立つことを示せ。

(1)  $y_n = \sqrt{x_n + n} - \sqrt{n}$  ( $n=1, 2, \dots$ ) とおくと、条件から  $\lim_{n \rightarrow \infty} y_n = a$

$\sqrt{x_n + n} = y_n + \sqrt{n}$  の両辺を2乗して

$$x_n + n = (y_n + \sqrt{n})^2 \quad \text{すなわち} \quad x_n = y_n^2 + 2\sqrt{n} y_n$$

よって  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{x_n}{\sqrt{n}} = \lim_{n \rightarrow \infty} \left( \frac{y_n^2}{\sqrt{n}} + 2y_n \right) = 2a$

(2) 曲線  $y = \frac{1}{\sqrt{x}}$  と  $x$  軸、直線  $x=m, x=m+1$

( $m$  は自然数) で囲まれた部分の面積を考えると

$$\frac{1}{\sqrt{m+1}} < \int_m^{m+1} \frac{1}{\sqrt{x}} dx < \frac{1}{\sqrt{m}}$$

$$\int_m^{m+1} \frac{1}{\sqrt{x}} dx = [2\sqrt{x}]_m^{m+1} = 2(\sqrt{m+1} - \sqrt{m})$$

であるから

$$\frac{1}{\sqrt{m+1}} < 2(\sqrt{m+1} - \sqrt{m}) < \frac{1}{\sqrt{m}} \quad \dots\dots ①$$

①の左側の不等式は  $m=0$  のときも成り立つから

$$\frac{1}{\sqrt{m}} < 2(\sqrt{m} - \sqrt{m-1})$$

よって、①から  $2(\sqrt{m+1} - \sqrt{m}) < \frac{1}{\sqrt{m}} < 2(\sqrt{m} - \sqrt{m-1})$

すなわち  $\sqrt{m+1} - \sqrt{m} < \frac{1}{2\sqrt{m}} < \sqrt{m} - \sqrt{m-1}$

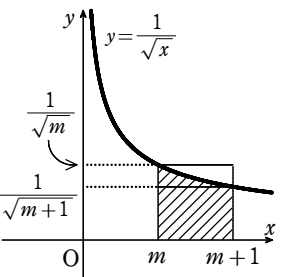
ゆえに  $\sum_{m=1+n}^{L+n} (\sqrt{m+1} - \sqrt{m}) < \sum_{m=1+n}^{L+n} \frac{1}{2\sqrt{m}} < \sum_{m=1+n}^{L+n} (\sqrt{m} - \sqrt{m-1})$

よって  $\sqrt{L+n+1} - \sqrt{1+n} < \frac{1}{2} \sum_{k=1}^L \frac{1}{\sqrt{k+n}} < \sqrt{L+n} - \sqrt{n}$

(3) 条件を  $L_n$  を用いて表すと  $\sum_{k=1}^{L_n} \frac{1}{\sqrt{k+n}} < b \leq \sum_{k=1}^{L_n+1} \frac{1}{\sqrt{k+n}}$

この不等式と(2)から

$$\sqrt{L_n+n+1} - \sqrt{n+1} < \frac{1}{2} \sum_{k=1}^{L_n} \frac{1}{\sqrt{k+n}} < \frac{b}{2} \quad \dots\dots ②$$



$$\frac{b}{2} \leq \frac{1}{2} \sum_{k=1}^{L_n+1} \frac{1}{\sqrt{k+n}} < \sqrt{L_n+n+1} - \sqrt{n} \quad \dots\dots \textcircled{3}$$

② から  $\sqrt{L_n+n+1} - \sqrt{n+1} < \frac{b}{2}$

ゆえに  $\sqrt{L_n+n+1} - \sqrt{n} < \frac{b}{2} + \sqrt{n+1} - \sqrt{n} \quad \dots\dots \textcircled{4}$

③ から  $\frac{b}{2} < \sqrt{L_n+n+1} - \sqrt{n} \quad \dots\dots \textcircled{5}$

④, ⑤ から  $\frac{b}{2} < \sqrt{L_n+1+n} - \sqrt{n} < \frac{b}{2} + \sqrt{n+1} - \sqrt{n}$

ここで  $\lim_{n \rightarrow \infty} (\sqrt{n+1} - \sqrt{n}) = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{\sqrt{n+1} + \sqrt{n}} = 0$  であるから

$$\lim_{n \rightarrow \infty} (\sqrt{L_n+1+n} - \sqrt{n}) = \frac{b}{2}$$

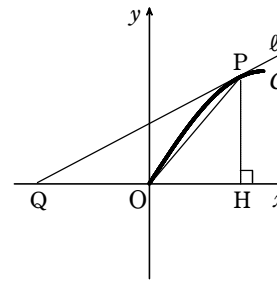
よって, (1) から  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{L_n+1}{\sqrt{n}} = 2 \cdot \frac{b}{2} = b$

ゆえに  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{L_n}{\sqrt{n}} = \lim_{n \rightarrow \infty} \left( \frac{L_n+1}{\sqrt{n}} - \frac{1}{\sqrt{n}} \right) = b - 0 = b$

8 [2008 金沢大]

O を原点とする座標平面上の曲線  $y = \sin \frac{x}{2}$  ( $0 \leq x \leq \pi$ )

を  $C$  とする。点  $P(t, \sin \frac{t}{2})$  ( $0 < t < \pi$ ) における  $C$  の接線を  $\ell$  とし,  $\ell$  と  $x$  軸との交点を  $Q$  とする。また点  $P$  から  $x$  軸に下ろした垂線を  $PH$  とする (右図参照)。曲線  $C$  と  $x$  軸および線分  $PH$  で囲まれた図形を  $x$  軸の周りに 1 回転させてできる立体の体積を  $V_0(t)$  とする。また  $\triangle POH$ ,  $\triangle PQH$  を  $x$  軸の周りに 1 回転させてできる円錐の体積を, それぞれ  $V_1(t)$ ,  $V_2(t)$  とする。



(1)  $V_0(t)$ ,  $V_1(t)$ ,  $V_2(t)$  を求めよ。

(2) 不等式  $V_1(t) < V_0(t) < V_2(t)$  を用いて,  $\lim_{t \rightarrow +0} \frac{t - \sin t}{t^3}$  を求めよ。

(1)  $V_0(t) = \pi \int_0^t \sin^2 \frac{x}{2} dx = \frac{\pi}{2} \int_0^t (1 - \cos x) dx = \frac{\pi}{2} [x - \sin x]_0^t = \frac{\pi}{2} (t - \sin t)$

$$V_1(t) = \frac{1}{3} \pi \left( \sin \frac{t}{2} \right)^2 t = \frac{\pi}{3} t \sin^2 \frac{t}{2}$$

$y = \sin \frac{x}{2}$  から  $y' = \frac{1}{2} \cos \frac{x}{2}$

$P(t, \sin \frac{t}{2})$  における  $C$  の接線  $\ell$  の方程式は  $y - \sin \frac{t}{2} = \frac{1}{2} \cos \frac{t}{2} (x - t)$

すなわち  $y = \frac{1}{2} \left( \cos \frac{t}{2} \right) x - \frac{t}{2} \cos \frac{t}{2} + \sin \frac{t}{2}$

$y=0$  とおくと  $\frac{1}{2} \left( \cos \frac{t}{2} \right) x - \frac{t}{2} \cos \frac{t}{2} + \sin \frac{t}{2} = 0$

よって  $x = t - 2 \tan \frac{t}{2}$

したがって  $V_2(t) = \frac{1}{3} \pi \left( \sin \frac{t}{2} \right)^2 \left\{ t - \left( t - 2 \tan \frac{t}{2} \right) \right\} = \frac{2}{3} \pi \sin^2 \frac{t}{2} \tan \frac{t}{2}$

(2)  $V_1(t) < V_0(t) < V_2(t)$  であるから

$$\frac{\pi}{3} t \sin^2 \frac{t}{2} < \frac{\pi}{2} (t - \sin t) < \frac{2}{3} \pi \sin^2 \frac{t}{2} \tan \frac{t}{2}$$

各辺を  $\frac{\pi}{2} t^3$  ( $>0$ ) で割ると  $\frac{2}{3} \cdot \frac{\sin^2 \frac{t}{2}}{t^2} < \frac{t - \sin t}{t^3} < \frac{4}{3} \cdot \frac{\sin^2 \frac{t}{2} \tan \frac{t}{2}}{t^3}$

ここで  $\lim_{t \rightarrow +0} \frac{2}{3} \cdot \frac{\sin^2 \frac{t}{2}}{t^2} = \lim_{t \rightarrow +0} \frac{1}{6} \left( \frac{\sin \frac{t}{2}}{\frac{t}{2}} \right)^2 = \frac{1}{6}$

$$\lim_{t \rightarrow +0} \frac{4}{3} \cdot \frac{\sin^2 \frac{t}{2} \tan \frac{t}{2}}{t^3} = \lim_{t \rightarrow +0} \frac{1}{6} \left( \frac{\sin \frac{t}{2}}{\frac{t}{2}} \right)^3 \frac{1}{\cos \frac{t}{2}} = \frac{1}{6}$$

したがって  $\lim_{t \rightarrow +0} \frac{t - \sin t}{t^3} = \frac{1}{6}$

9 [2008 金沢大]

自然数  $n$  に対して, 2 次正方行列  $A_n$  を

$$A_1 = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}, A_{n+1} = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} A_n \quad (n \geq 1)$$

により定める。また, 2 次正方行列  $B_n$  は

$$B_{n+1} = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} B_n - \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 4 \end{pmatrix} \quad (n \geq 1)$$

を満たすとする。

(1) 数学的帰納法を用いて  $A_n = \begin{pmatrix} 2^{n-1} & 2^{n-1} + 3^{n-1} \\ 0 & 3^{n-1} \end{pmatrix}$  ( $n \geq 1$ ) が成り立つことを示せ。

(2) ある 2 次正方行列  $C$  に対して,  $C = B_n - A_n$  がすべての  $n$  について成り立つとする。このとき,  $C$  を求めよ。

(3) (2) の条件を満たす  $B_n$  のうち, 逆行列をもたないものは  $B_1$  に限ることを示せ。

(1)  $A_n = \begin{pmatrix} 2^{n-1} & 2^{n-1} + 3^{n-1} \\ 0 & 3^{n-1} \end{pmatrix} \quad \dots\dots \textcircled{1}$  とする。

[1]  $n=1$  のとき ① の左辺  $= A_1 = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ , ① の右辺  $= \begin{pmatrix} 2^0 & 2^0 + 3^0 \\ 0 & 3^0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$

よって,  $n=1$  のとき ① は成り立つ。

[2]  $n=k$  のとき ① が成り立つ, すなわち  $A_k = \begin{pmatrix} 2^{k-1} & 2^{k-1} + 3^{k-1} \\ 0 & 3^{k-1} \end{pmatrix}$  と仮定する。

$n=k+1$  のときを考えると

$$A_{k+1} = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} A_k = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 2^{k-1} & 2^{k-1} + 3^{k-1} \\ 0 & 3^{k-1} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2^k & 2(2^{k-1} + 3^{k-1}) + 3^{k-1} \\ 0 & 3^k \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2^k & 2^k + 3^k \\ 0 & 3^k \end{pmatrix}$$

よって,  $n=k+1$  のときにも ① は成り立つ。

[1], [2] から, ① はすべての自然数  $n$  について成り立つ。

(2)  $B_{n+1} - A_{n+1} = \left\{ \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} B_n - \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 4 \end{pmatrix} \right\} - \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} A_n = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} (B_n - A_n) - \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 4 \end{pmatrix}$

であるから  $C = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} C - \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 4 \end{pmatrix}$

ゆえに  $\left\{ \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \right\} C = \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 4 \end{pmatrix}$  よって  $\begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 2 \end{pmatrix} C = \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 4 \end{pmatrix}$

したがって  $C = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 2 \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 4 \end{pmatrix} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 2 & -1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$

(3) (1), (2) から

$$B_n = A_n + C = \begin{pmatrix} 2^{n-1} & 2^{n-1} + 3^{n-1} \\ 0 & 3^{n-1} \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2^{n-1} & 2^{n-1} + 3^{n-1} + 1 \\ 1 & 3^{n-1} + 2 \end{pmatrix}$$

よって,  $B_n$  について

$$A = 2^{n-1}(3^{n-1} + 2) - (2^{n-1} + 3^{n-1} + 1) \cdot 1 = 2^{n-1} \cdot 3^{n-1} + 2^{n-1} - 3^{n-1} - 1$$

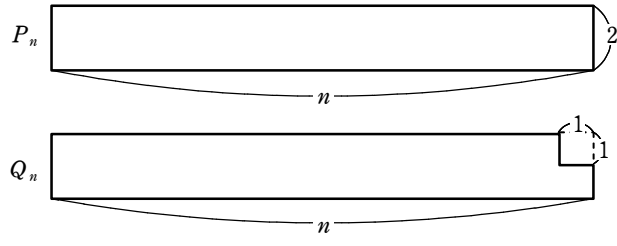
金沢大学入試問題2008

$= (2^{n-1} - 1)(3^{n-1} + 1)$

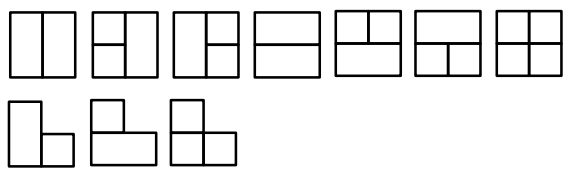
ゆえに  $n=1$  のとき  $A=0$ ,  $n \geq 2$  のとき  $A > 0$  したがって,  $B_n$  のうち逆行列をもたないものは  $B_1$  に限る。

10 [2008 金沢大]

自然数  $n$  に対して辺の長さが  $2$  と  $n$  の長方形を  $P_n$  とする。下図のように  $P_n$  から  $1$  辺の長さ  $1$  の正方形を除いた図形を  $Q_n$  とする。



この2つの図形  $P_n$  と  $Q_n$  を,  $1$  辺の長さ  $1$  の正方形および辺の長さが  $1$  と  $2$  の長方形のタイルを用いて, すきまなく埋めることを考える。 $P_n$  および  $Q_n$  をタイルで埋める異なるパターンを数を, それぞれ  $p_n$  および  $q_n$  とする。例えば  $P_2$  と  $Q_2$  を埋める異なるパターンはそれぞれ

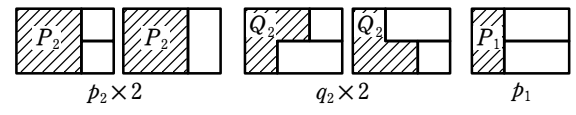
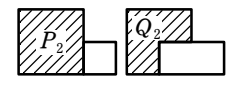


となり,  $p_2=7, q_2=3$  である。

- (1)  $q_3$  と  $p_3$  を求めよ。
- (2)  $q_{n+2}$  および  $p_{n+2}$  を  $p_{n+1}, q_{n+1}, p_n$  を用いて表せ。
- (3)  $\begin{pmatrix} p_{n+2} \\ q_{n+2} \\ p_{n+1} \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} p_{n+1} \\ q_{n+1} \\ p_n \end{pmatrix}$  を満たす  $3$  次正方行列  $A$  を求めよ。
- (4)  $p_5$  の値を求めよ。

(1) 右の図より  $q_3 = p_2 + q_2 = 7 + 3 = 10$

下の図より  $p_3 = 2p_2 + 2q_2 + p_1 = 2 \cdot 7 + 2 \cdot 3 + 2 = 22$



(2)  $1$  辺の長さ  $1$  の正方形のタイルを  $A$ , 辺の長さが  $1$  と  $2$  の長方形のタイルを  $B$  とする。

$Q_{n+2}$  を埋める異なるパターンは,  $P_{n+1}$  に  $A$  を加えるパターンと  $Q_{n+1}$  に  $B$  を加えるパターンを合わせただけある。

よって  $q_{n+2} = p_{n+1} + q_{n+1}$

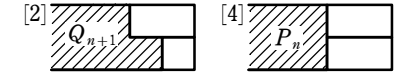
$P_{n+2}$  を埋める異なるパターンは, 次のパターンを合わせただけある。

- [1]  $P_{n+1}$  に  $A$  を  $2$  つ または  $B$  を  $1$  つ加える。

[2]  $Q_{n+1}$  に  $A, B$  を  $1$  つずつ, 下の図のように加える。

[3] [2] の上下を逆にする。

[4]  $P_n$  に  $B$  を  $2$  つ, 下の図のように加える。



よって  $p_{n+2} = 2p_{n+1} + 2q_{n+1} + p_n$

(3)  $\begin{cases} p_{n+2} = 2p_{n+1} + 2q_{n+1} + p_n \\ q_{n+2} = p_{n+1} + q_{n+1} + 0 \cdot p_n \\ p_{n+1} = p_{n+1} + 0 \cdot q_{n+1} + 0 \cdot p_n \end{cases}$  であるから

$\begin{pmatrix} p_{n+2} \\ q_{n+2} \\ p_{n+1} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} p_{n+1} \\ q_{n+1} \\ p_n \end{pmatrix}$  よって  $A = \begin{pmatrix} 2 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$

(4) (3) から  $\begin{pmatrix} p_5 \\ q_5 \\ p_4 \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} p_4 \\ q_4 \\ p_3 \end{pmatrix} = A^2 \begin{pmatrix} p_3 \\ q_3 \\ p_2 \end{pmatrix}$

$A^2 = \begin{pmatrix} 2 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 2 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 7 & 6 & 2 \\ 3 & 3 & 1 \\ 2 & 2 & 1 \end{pmatrix}$

よって  $p_5 = 7p_3 + 6q_3 + 2p_2 = 7 \cdot 7 + 6 \cdot 10 + 2 \cdot 7 = 228$

別解 (2) から  $p_5 = 2p_4 + 2q_4 + p_3 = 2(2p_3 + 2q_3 + p_2) + 2(p_3 + q_3) + p_3 = 7p_3 + 6q_3 + 2p_2 = 7 \cdot 7 + 6 \cdot 10 + 2 \cdot 7 = 228$